

共創 ～市邨高校との交流～

今週、市邨高校の皆さんとの交流がありました。

普段とは違う年齢の人と一緒に話し、考え、活動をつくっていく時間です。交流の中では、高校生の話に体を向けて耳を傾ける姿、相手の考えに「それって～ということ？」と問い返す姿、同じグループのメンバーと「どう思う？」と考える姿がありました。また、高校生がリーダーシップを発揮し動き始めると、その姿についていき、自分にもできることを探し始める子もいました。一人の頑張りが周りに伝わり、少しずつみんなの動きへと変わっていく、素敵場面をいくつも見る事ができました。

集団には、最初の一步を踏み出す人が必要です。しかし、その人だけが頑張っている人も、活動は大きくなりません。「それなら自分もやってみよう」と続く人、頑張っている人を支える人、うまく活動に入れていない人をそっと引き上げる人がいて、初めて集団全体が前へ進みます。先頭に立つ力だけでなく、一人の頑張りについていく力も、大切な力なのだと思います。

教室では、今週の道徳で「成長型マインドセット」と「固定型マインドセット」について話をしました。固定型マインドセットとは、「自分の力や得意・不得意は、簡単には変わらない」と考える見方です。「話すのが苦手だからできない」「知らない人と関わるのは得意ではないから、誰かに任せよう」と、今の自分だけで可能性を決めてしまいます。一方、成長型マインドセットは、「今は十分にできなくても、挑戦や工夫、周りの助けによって伸びていける」と考える見方です。能力は、努力だけでなく、方法を変えたり、人から学んだりすることでも育てられるとされています。

もちろん、どちらか一方の考え方だけを持っている人はいません。初めての相手を前にすれば、「失敗したらどうしよう」「自分には難しい」と感じることもあります。その気持ちが生まれること自体は、決して悪いことではありません。大切なのは、その声に気づいたあと、どう動くかです。

「苦手だからやらない」で終わるのではなく、「この機会は、今の自分に必要なものかもしれない」「せっかくなら、どこまでできるか試してみよう」と、自分の向き合い方を少し変えてみる。課題を変えてもらう前に、自分の関わり方を一歩だけ変えてみる。その姿が、今回の交流の中にもありました。

聞こえてくるのを待つのではなく、聞こうとする。相手の言葉をそのまま受け取るだけでなく、「なぜそう考えたのだろう」と、その言葉の裏側まで考えてみる。誰かが役割を与えてくれるのを待つのではなく、「今、この場で必要なことは何だろう」と自分から探してみる。こうした対話する力や考える力は、一度の経験ですぐに身につくものではありません。しかし、繰り返すうちに習慣になり、やがて自然な行動へと変わっていきます。

「どうせ自分にはできない」と無意識に止まるのか、「まず聞いてみよう」「自分にも何かできるかもしれない」と無意識に動けるのか。毎日の小さな選択の積み重ねが、やがて大きな違いになります。今回の交流では、子どもたちが互いのよさを受け取りながら、一人では生み出せなかった考えをつくる姿も見られました。同じことを一緒にするだけではなく、それぞれの力を持ち寄って新しいものをつくる「共創」や「協創」の姿です。

一人の頑張りは、太陽のように周りを照らします。その光を受け取った人が一歩動くことで、さらに別の誰かも動き始めます。誰かだけが集団を引っ張るのではなく、互いに引き上げ合いながら、みんなで少しずつ上がっていく。今回の市邨高校の皆さんとの交流が、子どもたちにとって、自分の可能性と仲間への力に気づく機会になっていれば嬉しく思います。

【参考】 Carol S. Dweck, “The Growth Mindset Talks at Google

